

# 一般質問

6月1日、2日の本会議で、21人の議員が、市政全般について、一般質問を行いました。要旨は次のとおりです。

## 特養どんぐり山の重要性和公的責任を再認識せよ



いのちが大事 嶋崎 英治 議員

議員 三鷹市立特別養護老人ホームどんぐり山及び三鷹市高齢者センターどんぐり山の廃止方針が打ち出され、市民から驚きや、存続を求める声等が寄せられている。どんぐり山が果たしてきた役割について伺う。

市長 難しいケースに率先して対応する等、他施設の模範となる運営により、大きな役割を果たしてきた。この施設は、市の公的責任として運営されてきた。廃止されたら、どこがその役割を果たすのか。

市長 新たに開設される2つの民間施設も含め、各施設と連携を図り、十分な対応が取れるよう努めたい。

議員 2017年4月に指定管理者である社会福祉法人楽山会から、事実経過が書かれた文書が議員に渡された。



特別養護老人ホームどんぐり山

議員 2017年4月に指定管理者である社会福祉法人楽山会から、事実経過が書かれた文書が議員に渡された。この施設は、市の公的責任として運営されてきた。廃止されたら、低所得者がどこが受け入れるのか。

## いのちと暮らしが尊重されるまちづくりを



いのちが大事 野村 羊子 議員

議員 就労の場の男女平等の推進について、市職員の管理職に占める女性の割合を30%とする最終目標達成のための取り組みを伺う。

市長 本年4月に中期目標25%を達成した。今後も昇任選考の募集時に育児休業等取得した場合のキャリアモデルを示すなど目標値の達成に向け努力したい。

議員 仙台市は多様性に配慮した避難所運営に関するテキストを作成している。避難所運営で女性がリーダーシップを発揮できるように研修が必要ではないか。

市長 大変重要な視点と考えている。今後も、被災地で有用であった手法等を学びながら工夫していきたい。

議員 男女平等参画情報提供コーナーは、担当窓口の移動に伴い、機能の拡充が図られているのか伺う。

企画部長 移動前と機能の大きな変化はないが、開庁時には執務室の扉を開けておくなど、市民が気軽に立ち寄りやすいように配慮している。

## 市庁舎建替はゼロから議論し直せ



いのちが大事 伊沢 けい子 議員

議員 本年、三鷹中央防災公園・元気創造プラザ整備事業が完了したばかりであるにもかかわらず、市庁舎建替を進める方針は同意できない。昨年9月に発足した「市庁舎等建替えに向

けて基本的な枠組みに関する研究会」の議事録が公開されないのはなぜなのか。

て情報提供に努めている。議員 研究会の研究員が、20人中14人も市の職員である理由を伺う。

市長 14人は市の現状も踏まえた意見交換のために、防災、福祉など幅広い分野の部課長を充てた。

議員 平成9年と23年の耐震補強工事により、耐震性能は確保されている。全事業の中で市庁舎建替えを最優先にする理由とは何か。

市長 現庁舎等は築50年以上経過し、更なる耐震性向上や機能的な充実等には、部分的な改修では対応できない。市は多様な行政を進めており、市庁舎建替えは最優先ではないが、重要な課題と認識をしている。

議員 3月の補正予算の中で本市の対応状況を伺う。

市長 大変重要な視点と考えている。今後も、被災地で有用であった手法等を学びながら工夫していきたい。

## 国や都との連携で市の課題解決に取り組め



自由民主クラブ 伊東 光則 議員

議員 市が市民満足度の向上のため様々な課題に取り組む場合、市独自で解決が困難な課題には、国・都との連携が必要と考える。国との連携として、災害時における自衛隊との連携について所見を伺う。

市長 三鷹市防災会議の委員への委嘱や総合防災訓練への参加等を通じて連携している。今後も、防災に密な連携を進めていく。

議員 自衛隊の特色は、ヘリコプターを保有し、ピンポイントで救助作業ができることが挙げられる。ヘリコプターの発着場所確保について方向性を伺う。

議員 市が市民満足度の向上のため様々な課題に取り組む場合、市独自で解決が困難な課題には、国・都との連携が必要と考える。国との連携として、災害時における自衛隊との連携について所見を伺う。

で庁舎等建設基金20億円の積み立てを行った。総事業費の見込みを伺う。

市長 建替えの規模や事業手法等を検討中のため、現時点では未定だ。

議員 市は、平成21年5月に独立行政法人都市再生機構（UR）と、都市再生の推進に関する基本協定を締結しているが、市庁舎建替えはURと協働で事業を進める考えなのか伺う。

市長 現時点では未定だ。議員 市の財政状況で、大規模な事業を行う余裕はあるのか。今年度中の基本構想の策定は加速でないか。

市長 経費の点からも市民の理解が必要だ。現時点での論点を整理し、課題や工程表等を市民に示したい。

総務部長 調布飛行場に加えて第一中学校がヘリコプターの発着場に指定され、今後活用が期待できる。

議員 小・中学校では、都職員と市職員が一緒に仕事をしている。学校教育における都との連携について、現状と課題を伺う。

教育長 都からの教育内容に関する情報提供や都委託事業の推進等により連携を図っている。教員が人事異動で市に転入した場合、三鷹の教育への理解をいかに深めるかが課題である。

議員 市の特色などを教員に理解を深めてもらうため、どのような指導を行っているのか。

議員 市が市民満足度の向上のため様々な課題に取り組む場合、市独自で解決が困難な課題には、国・都との連携が必要と考える。国との連携として、災害時における自衛隊との連携について所見を伺う。

教育長 学校行事等だけでなく、防災訓練等を通じて地域の方との交流などで理解促進を図っている。

議員 交通安全の取り組みや特殊詐欺などについて周知活動が行われているが、犯罪被害ゼロに向けた警察

と連携した取り組みについて所見を伺う。

市長 三鷹警察署とは本年3月に「三鷹市安全安心のまちづくりに関する覚書」の締結等連携に努めている。今後も情報共有を図り連携を進めていきたい。

## 地域コミュニティの充実・発展に向けた支援を



自由民主クラブ 土屋 健一 議員

議員 町会・自治会等は、役員の高齢化や人材不足、加入者の減少、活動資金の不足など様々な課題を抱えている。課題解決や発展に向けては、団体間の連携や交流が有効だ。支援策を伺う。

市長 今後も「がんばる地域応援プロジェクト」のような町会・自治会等の先進的な取り組みの紹介や新たな連携の支援を行いたい。

議員 町会・自治会等の連携強化においては、連合会組織が必要だ。所見を伺う。

市長 町会・自治会等が自主的・自発的につくることが望ましいと考えている。

議員 少子化や核家族化、住民間の交流の希薄化が問題視されている今、子ども会の重要性を再認識し、充

ていく必要がある。子ども会は、世代間の交流や見守りが生まれる空間を目指すとしている。多世代交流センターにおける地域コミュニティの充実・発展に向けた取り組みを伺う。

市長 多世代交流が進むことによって、高齢者が地域の子どもの元から元気をもたらす、自身の経験を活かせるような仕組みづくりを協働で進めていきたい。



がんばる地域応援プロジェクト発表会・交流会